



救急外来に通はれた患者のたんの吸引をする総合診療医の和足さん(左、東京都江東区の東京城東病院で)

救急外来に総合診療医

先月、東京都江東区の東京東大病院に80歳の男性が救急車で運ばれてきた。前日から微熱が出て、その日は38度に上がり、意識がもううろうとしてきたという。病棟にいた医師の和足医師さんは救急外来に駆け降りた。

くまなく診て異常がないかを調べた。

採血をして検査に回す。  
聴診器を当てて肺の音を聞く。のどに管を入れ、たんを取つて色を見た。胸や腹部から手足の指まで全身を

て不要な薬は入院中に減ら  
しましょう」と話した。  
和足さんは、患者を幅広  
く診る総合診療医だ。同病  
院は昨年4月、全国の旧社

内科の入院病棟には約40  
のベッドがあつたが、着任  
当時、入院患者は一人だけ。  
看護器、呼吸器など専門的

「薬の治療で」かまわなく、立  
ちができるまでに回復した。 「総合診療を学び、た  
ていいの病気に対する考え方

京城東病院をその拠点に位置つけ、昨年7月に和足さんが着任した。

っていた男性は「顕微鏡的多発血管炎」という珍しい病気と診断がつき、ステロ

会保険病院などを再編した  
独立行政法人「地域医療機  
能推進機構（JCHO）」  
の傘下に入った。機構は總  
合管轄本部を有するが、更

入していくが吐血、胃にで  
きた潰瘍から出血してお  
り、内視鏡で血を止めて輸  
血した。

が来ても受け入れられず、循環器内科医が当直する際には腹痛患者を受け入れられなかつた。着任後は救急車を断らなくなり、今年2月にはほぼ満床になつた。

したが、同病院は総合診療科医を15人（うち後期研修医9人）に増員。医学部生の実習も受け入れており、全日本の学生から問い合わせが相次いでいる。JCHO本

れなかつた。着任後は救急車を断らなくなり、今年2月にはほぼ満床になつた。運ばれてくる患者のほとんどは高齢者で、複数の病気を持つていた。

実習も受け入れており、全  
国の学生から問い合わせが  
相次いでいる。JCHO本  
部顧問で総合診療医の徳田  
安春さんは「若い医師や学  
生の関心は高い。高齢社会

90歳代の男性は腸閉塞になつて吐き<sup>イ</sup>のみ込む力が弱いので、吐いた物が肺に

や地域の診療」など)であつて、「医師を育てていただき」と話す。